

遺骨が混じる

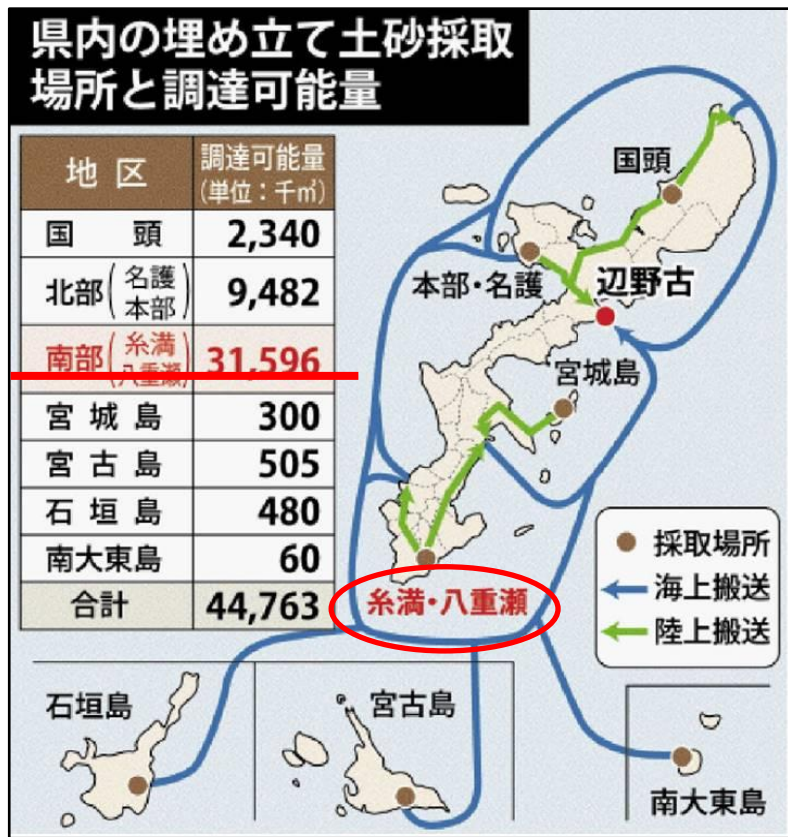
沖縄南部の土砂を新基地建設の埋め立てに使わせてはなりません

日本政府は米軍の新基地建設埋め立てに必要な土砂を沖縄全域から調達しようとしています。そのうち約7割はなんと沖縄南部の糸満・八重瀬地域からです(下図参照)。

このエリアは悲惨極まる先の沖縄地上戦で膨大な数の県民や日米兵士らが命を落とした場所で、その遺骨の多くはいまだ回収されず地中に眠ったままです。戦没者の遺骨や血が混じった土を新基地建設の埋め立てに使う――
こんな非人道的な行為が許されていいのでしょうか。

「戦没者や遺族を冒瀆する

行為」 「戦没者を2度殺すようなもの」と長年ボランティアで遺骨収集に取り組んでいる具志堅隆松さんはじめ、キリスト教や仏教の宗教者たちが一致して立ちあがりました。
私たちは声を大にして日本政府と国民に訴えます。「これでいいんですか、声なき戦没者、その遺族の方々の思いを蹂躪、冒瀆していませんか。助けてください」



全国各自治体から

南部土砂採取反対の「意見書」を

政府に集中せよという

お力を貸してください

喜屋武幸清さん(82才那覇)

祖父の亀が米須付近で戦死し遺骨は見つかっていない。幼い頃、父に連れられ魂魄の塔が建設される前の現場に行ったことがある。「ここで大勢の人が亡くなったんだ」と父が話していたのを思い出す。
この地域の土砂を米軍の新基地埋め立てに使うなど、とんでもない。考えただけで胸くそが悪くなる。

知花昌一さん(73才読谷)

母の弟、父の兄が招集され兵隊として南部のどこかで死んだ。ともに20代だったと思う。大勢死んで場所もわからず、遺骨は見つかるとは思えない。骨は魂魄の塔に入っているかも。
政府のやることにあきれて言葉も出ない。あえて開発業者、政府に言うなら「そこまでやるのか!」

遺族の思い

神谷乗好さん(81才読谷)

父方のおじさんが防衛隊に召集され、魂魄の塔近くの山城壕で戦死。47年に友人が遺体を見つけ埋葬してくれた。おばさんたちは読谷のガマで艦砲射撃に遭い、生き埋めとなった。

南部は「反戦、平和」を祈願する慰霊の地であり、戦跡公園として保存すべきだ。政府はやってはいけないことをやろうとしている。(県民は)命がけで闘わなければ

山内慶一さん(71才読谷)

おじさんが米須の白梅の塔の近くで命を落としたが、遺骨は見つからない。防衛隊の一兵だった。米須の土を埋め立てに使ったら、今の自分たちが骨を踏みつけ、また殺すようなものだ。
昔はアメリカ、今度は日本政府に蹂躪され、踏んだり蹴ったりだ。絶対許せん!

☆オンライン署名にご協力を

<https://action-nanbudosya.jimdofree.com/>

沖縄島ぐるみ宗教者の会 / 「ガマフヤー」支援者の会

連絡: action.nanbudosya@gmail.com

(カンパ支援先) 沖縄銀行 泡瀬支店 普通口座 1899970

口座名: 谷 大二(ガマフヤーを支援する会事務局)

